

## フランスで一番古い原発 2 基が廃炉

『Der Spiegel』というドイツではよく知られている週刊誌の 2017 年 1 月 24 日の電子版に、フランスでの原発の廃炉の記事が載っていました。訳してみましたので紹介いたします。

もう少し前後関係がはっきりと判るように、時系列にそって、諸事の背景にも少し筆を伸ばして書いてくれないものかと思わないわけではありません。この叙述スタイルは、記者の理解回路が反映しているのしょうから、それはそれとして仕方ありません。記事の記述に補足が必要と思われる箇所には、最小限ですが、注記や補足を加えました。叙述が直線的とはいえないし、私はフランスの事情には疎いしで、誤訳や半解ゆえの注記があるかとは思いますが。その点をご勘弁いただきまして、フランスの原発第 1 号が廃炉になる、これには諸種の前史があり、廃炉の実施にはいろいろな条件が付いており、賛否もあり、今後も紆余曲折が予想され …… とお読みください。

なお、1 ユーロは福島事故のあった 2011 年は平均で 110 円台前半、現在は 120 円台前半です。

<http://www.spiegel.de/wissenschaft/technik/fessenheim-frankreich-schaltet-uralt-akw-ab-a-1131487.html> でオリジナルの記事が読めます。

(文責 栗山次郎) 2017 年 2 月 6 日公開

.....

## フランスの最も古いフェッセンアイム原発が 2018 年には操業を停止

2012 年フランスの大統領選でのホランド候補の公約の 41 番目には「フェッセンアイム原発の操業中止」が挙げられていた。5 年後にそれが現実となった。EDF 電力会社の監査会が過半数ぎりぎり、900 メガワットの原子炉 2 基を 2018 年までに停止する、と決めた。しかし、4 億 4 千 6 百万ユーロの補償金と他の原発の操業保証とを求めている。フェッセンアイム原発の操業停止は次の段階の議論を迎えることになった。

この原発は独仏国境の近く、フライブルクの南西 30 キロのところにある。フランス、ドイツ、スイスの環境保護団体は長年にわたって操業停止を求めている。ドイツ政府、ドイツの各州、周囲の自治体も繰り返し 2 基の原子炉の停止を要求していた。

58 基の原子炉が操業しており、原発をエネルギー供給の基底に置いている原子力国家フランスにとっては、これは何をおいても象徴的な決定である。と言うのは、福島の大惨事から一年後に、ホランド候補がフェッセンアイムの停止を公約した時に、原発への信頼はゆらいでいたのである。彼は、社会党の大統領候補であったが、緑の顔で得票を稼いだのであった。

## 何十年もの間の争点

専門家の間でもフェッセンアイム原発については意見が分かれていた。1977 年に操業開始した 2 基の原子炉は上部ライン断層の上であり、地震が起これば不安定になる地盤の上に建てられている。原発建設当時から多くの批判的意見が表明されていた。地震が起これ

ば原発の上方を流れているアルザス運河の堤防が決壊し大量の水が原発に流れ込む可能性が高いし、炉心部に一つでも亀裂があれば施設下部のコンクリート盤が破壊されかねない、このような事態になれば、放射性物質に汚染された冷却材が流出し、ヨーロッパ最大の地下水源地を危機にさらすような重大な結果を招く、というのがその代表的な批判だった。

### この原発の評価は高かった

このような懸念はあったのだが、当時は立地として認可され、原子力安全委員会（ASN）の操業認可が下り、それが継続されていた。フランスの他の原発に比べて、フェッセンアイム原発は、安全性、環境保護、従業員保護遵守などで優良原発と評価されていた。福島での事故の後に、電力会社はこの古い原発を4億ユーロかけてオーバーホールした。それによって10年間の操業延長が認められた。最近第2号基の操業が、「異常の可能性」点検のために中断された。

### 脱原発への第一歩ではない

これは最初の中断というわけではなかった。2014年にも事故があり、ドイツの環境大臣はこの国境ぎわにある原発の閉鎖について申し入れを行っている。フランス・スイス・ドイツ三国の接する地にある原発は「古すぎる」ので安全性において大きな危惧がある、「出来るだけ早期に操業を中止にすべきである」と当時のドイツの環境大臣バルバーラ・ヘンドリックス（所属はSPD社会民主党）は求めている。それに対してフランス当局は、「操業を中止する根拠は見当たらない」と回答している。

今日の決定も脱原発の第一歩というわけではない。昨年2月にも環境大臣セゴレーヌ・ロワイヤルは、フェッセンアイム原発の操業許可をさらに10年延長することに同意している。これは環境団体や緑の党からは激しく批判された。「寿命を終えた原発の操業を延長することは高くつくだけではない。危険でもある。」とフランス緑の野党党首のダヴィッド・コルマンは述べ、さらに、発電所全体を更新するには1千億ユーロを要するだろうと会計検査院は計算しているとも述べている。

### EDF 社には見返りもたくさん

事実フランスの原発においては常に事故が起こっている。ASNは10月に9基の原子炉の停止を命じている。保護外被に「規則的に起こるとは説明の出来ない重大な事態」が発見された故の措置であった。

（訳者注と補足：この「事態」は、日本では原子力圧力容器の部材に脆弱性が指摘されたと報道されている事態を指していると思われる。この記事にあるように、フランスでは脆弱性が指摘された部材を使用している原子炉を停止して検査をしたし、（現時点でも）検査をしている。同種の部材は川内、玄海、伊方の原発にも使用されているが、日本の原子力規制委員会は「問題なし」と判断している。日本の原子力規制委員会は原発の危険性に正面から取り組もうとしていない、という批判の一つの例と言える。）

EDF社の監査会の決定は時宜を得たものではあるが、これは会社と、会社の株を85.6%所有している国との長い交渉の結果発表されたものである。フェッセンアイム原発は操業

を中止するが、他の原発は操業を続ける。

電力会社が手にするのは補償金だけではない。決定には次の項目もある。

- ・技術的な問題で停滞していたフラマンヴィユ重水型原発は建設を急ぐ。フェッセンアイム原発は2018年までには操業を中止するが、操業中止の時点までに、フラマンヴィユ原発の操業開始を目指す。

(訳者注：この項目により電力会社は新しい原発を手に入れることが出来ることになる。)

- ・EDF社は、2015年から稼動していないセン・マリティム県の1基の原発を再稼動させる。フランスのエネルギー関連法では、原子炉が停止して2年経てば「最終的操業中止」とされている。

(訳者注：この項目により電力会社は、現行法では再稼動を絶望視されていた原発を再稼動させることが出来ることになる。)

### **労働組合は雇用確保が関心事**

フェッセンアイム原発従業員の代表者たちは、この決定に反対している。1000人以上の労働者が失職すると見ている。共産主義労働組合(CGT)は工場を「占拠して」でも操業中止には「断固として戦う」と反対している。フィリップ・パジュ・ル・メロウはフランス情報放送で「CGTにとっては守らなければならない企業です。フェッセンアイムは、一般の人たちのために、なくてはならない何よりも必要なもの、すなわち電気を、作り出している工場なのです。」と述べている。